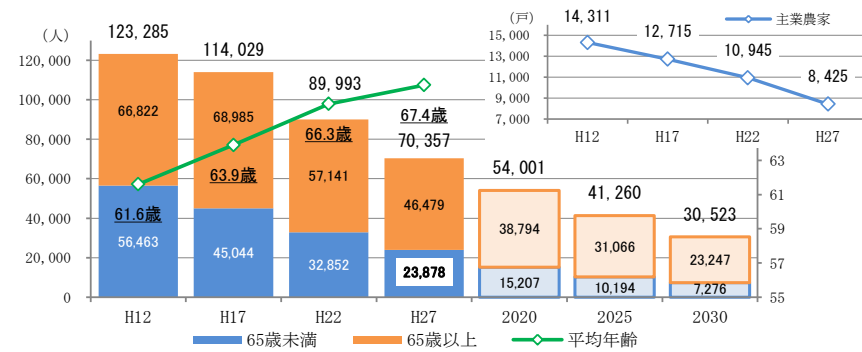


# 岩手の農業・農村の現状

## 担い手

- H27年の農業就業人口は、約7万人とH12年の約6割、平均年齢は67歳まで上昇。H37年は約4万人に減少見通し。主業農家も減少傾向にあるもののH27年は約8千戸。



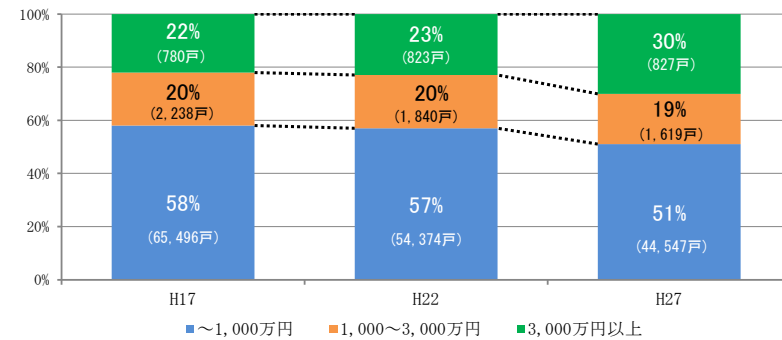
- 米政策を契機に組織化された集落営農組織は法人化が進展

区分	H17	H22	H27	H30	H30/H17
組織数(組織)	79	440	423	396	501%
うち法人(組織)	21	54	105	180	857%

- 認定農業者数は、就業人口の減に伴い減少傾向

区分	H17	H22	H27	H28	H28/H17
農業者数(人)	6,915	8,079	7,375	7,085	103%

- 販売額3,000万円以上となる経営体は着実に増加、農業産出額に占める販売農家割合も上昇。

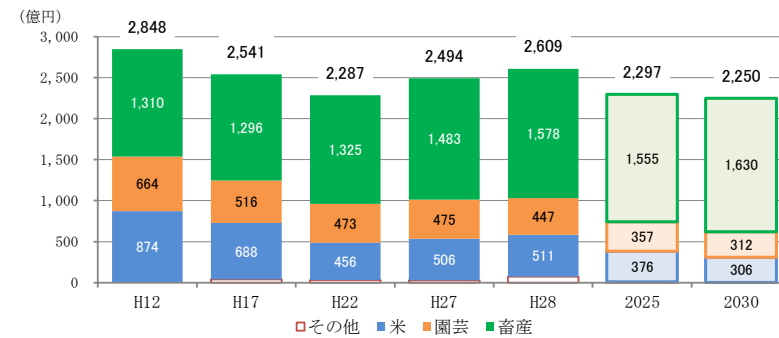


- 平成28年の新規就農者数は233人と平成17年より6割増加、法人雇用が増加している一方で、自営業業者は横ばい。

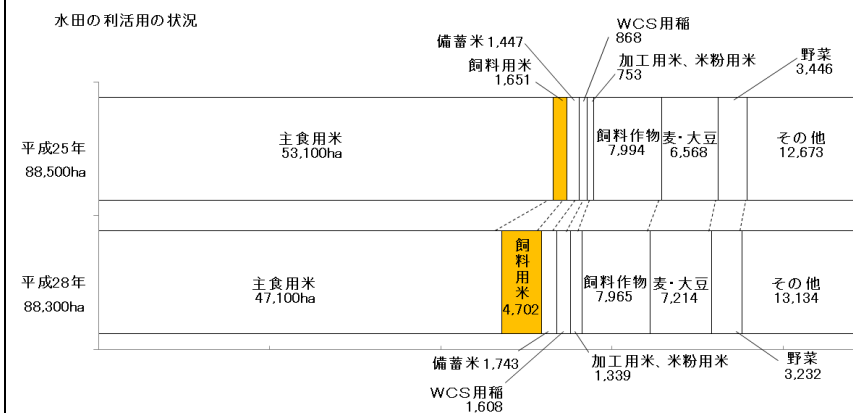
区分	H17	H22	H27	H29	H29/H17
自営業(人)	128	169	134	128	100%
親元就業(人)	109	83	103	88	81%
新規参入(人)	19	43	31	40	211%
雇用就業(人)	15	58	74	90	600%
合計(人)	143	227	208	218	152%

## 産地づくり

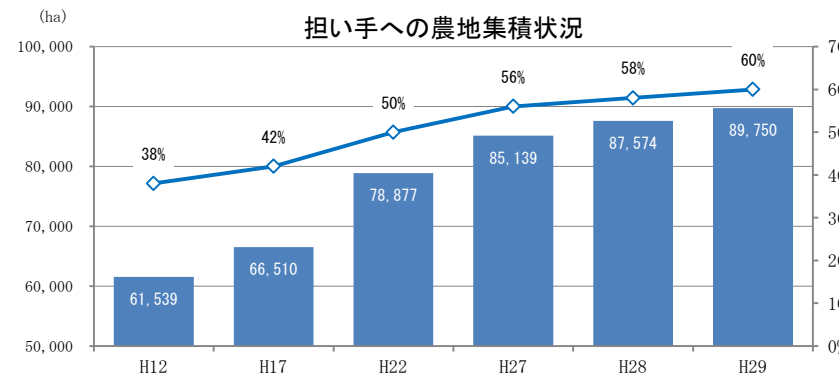
- 農業産出額は、畜産物価格などの堅調な推移で増加、就業人口の減少により産出額も減少の懸念



- 全国的な米の需要減少を踏まえ、飼料用米の作付が拡大、「金色の風」「銀河のしずく」を核に県産米の評価向上



- 担い手への農地集積率は60%と着実に進展



- 水田整備率は51.6%と東北・全国に比べ依然、低い状況

区分	H12	H17	H22	H27	東北 (H27)	全国 (H27)
整備率 (%)	45.5	48.0	50.3	51.6	66.1	64.7

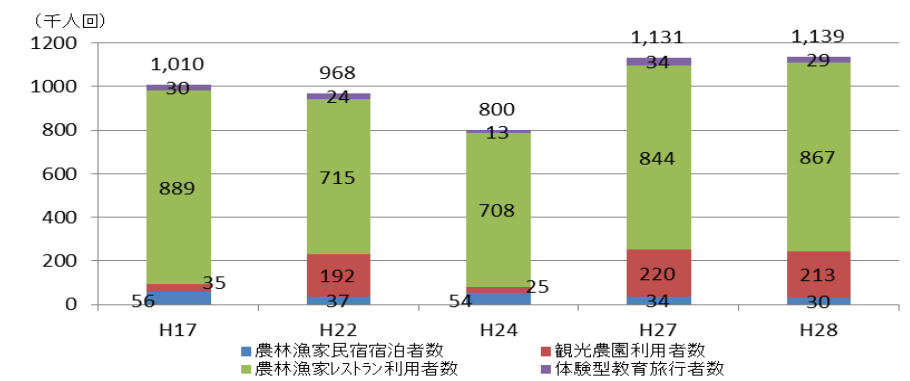
注) 水田整備率: 概ね30a程度以上に区画整理された水田

## 高付加価値化・農山漁村の活性化

- 6次産業化による販売額は、農産物加工等を中心に増加

区分	H22	H25	H26	H27	H27/H22
農産加工	3,329	7,214	7,255	8,122	244%
産直	14,722	14,051	16,733	17,694	120%
観光農園	696	420	399	411	59%
農泊	189	170	234	201	106%
レストラン	312	535	507	574	184%
計(千円)	19,248	23,927	26,979	29,855	155%

- グリーン・ツーリズム交流人口は、震災の影響で落ち込んだものの回復傾向



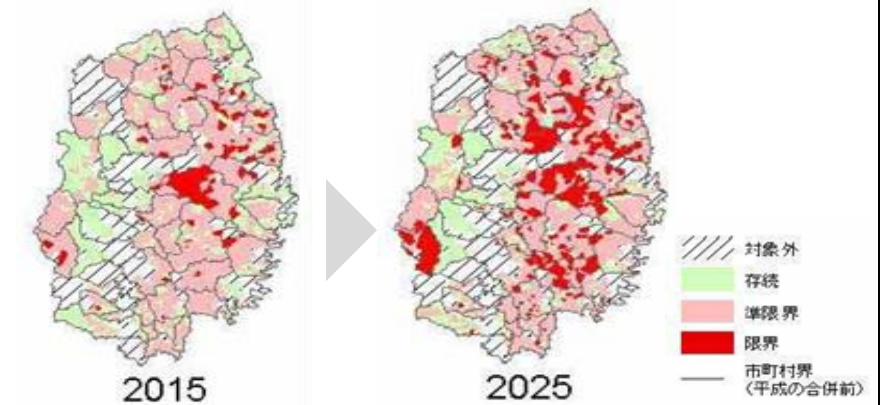
- 日本型直接支払制度の取組面積は増加

区分	H22	H27	H28	H29	H29/H22
多面的機能支払(ha)	39,957	71,871	73,852	74,629	187%
中山間地域等直接支払	22,268	23,111	23,869	23,929	107%
環境保全型農業直接支払	-	4,047	4,982	4,078	101%

- H27年の耕作放棄地面積はH12に比べ2倍に拡大

区分	H12	H17	H22	H27	H27/H12
面積(ha)	8,093	12,574	13,933	17,428	215%

- 限界集落となる可能性の地域は、今後さらに拡大の予測



(出典) 国土交通省「岩手県の中山間地域における人口と限界集落の分布予測」より抜粋

**課題: 就業人口・居住人口の減少が見込まれる中において、地域経済を支える農業の維持・拡大や農山漁村の活力の維持・活性化が重要**